

ヒブワクチンに助成を

「求める会」と
公明市議ら 市長に早期実施を要望

岡・市
福前

福岡県前原市の「ヒブワクチン接種の公費助成を求める会」(前田妙子代表)はこのほど、松本嶺男市長を訪ね、ヒブワクチン接種への公費助成を求める要望を行った。これには市議会公明党の笹栗純夫、黒田公二の両議員も同席した。

席上、前田代表らは、インフルエンザ菌b型(Hib)は、乳幼児に重い細菌性髄膜炎を引き起こし、最悪の場合、死に至ることや、重

度の後遺症が残ることを強調。「予防に有効なワクチンの接種が必要である」と訴えた。

さらに、任意接種であるため、1回約8000円の費用が掛かることや、4回の接種が必要とされているものの、経済

的負担が大きいことなどの実情を報告。①公費助成の早急な実施②ワクチン接種の意識啓発と普及促進③国への定期接種化と助成制度の拡充要望——の3点にわたって要望した。松本市長は、検討していく考えを示した。



松本市長(左から3人目)に要望書を手渡す公費助成を求める会のメンバーら